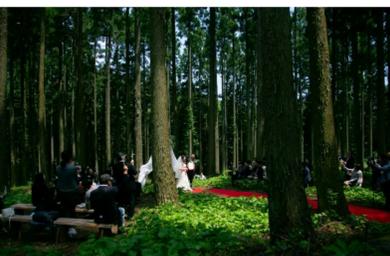


# 「ウッドデザイン賞2019」 受賞作品一覧

## コミュニケーション分野

### ライフスタイルデザイン部門

受賞作品名	受賞団体名 (主たる応募者、共同応募者)	サブカテゴリ	作品の概要 ※受賞者提供情報に一部編集・加筆等をしています	写真
木暮人国際映画祭	一般社団法人 木暮人倶楽部(東京)	イベント・ワークショップ ショッブ (定期開催)	一般社団法人木暮人倶楽部が主催する「木暮人国際映画祭」は、森林や木をテーマにした映画や映像を広く社会に広めることで、主に都会に住む一般人に森林や木をもっと身近に感じてもらうことを目的として、森林や木に特化したテーマの作品だけを毎年連続的に上映する世界でも珍しい映画祭です。	
The深川WOOD FESの実施	旧木場プロジェクト(東京)	イベント・ワークショップ ショッブ (定期開催)	かつて材木屋が立ち並び活況を呈していた深川の木の文化を継承していくため、地元の材木屋が中心となり、地元のお祭りである「お江戸深川さくらまつり」に合わせ「木と暮らす、木を楽しむ」をテーマにした「深川ウッドフェス」を実施し、自然素材の良さを育む「木育」活動の一環としてワークショップや木のひろばを提供した	
ブルーノ・タウトの緑の椅子 復刻/量産化プロジェクト	緑の椅子リプロダクト研究会(東京)	普及・啓発 (システム)	本研究は、世界に一点だけ残る試作椅子「ブルーノ・タウトの緑の椅子」を題材として、非接触3次元スキャンによる立体データ取得から3次元モデルデータ作成、NC加工での部品製作、そして組み立てに至る一連のデジタルプロセスによる復刻量産の手法を確立し、歴史的プロダクトの価値を広く流布することを目的とした。	
<b>ハートフルデザイン部門</b>				
Mokuiku in English	帝国器材株式会社(東京)、SUNNY BUNNYバイリンガル育成スクール(東京)	イベント・ワークショップ ショッブ (単発)	「木育+英語」で新しい教育プログラムを構成。関心の高い英語教育に注目し、一人でも多く木に興味を持ってもらうことを狙いとする。プログラムの資料やワークショップ中の会話は全て英語とし、日本の木文化を学び創造性や表現力を高めていく。対象者は英会話教室にイベントとして参加した5歳児~小学校中学年程度。	
aroma oil blender [Japanese wood edition]	アットアロマ株式会社(東京)	普及・啓発 (ツール・メディア)	15種類の国産の樹木を中心とした香りから、好きな香りをブレンドし、実際に空間で体感することができる体感型マシン。専門スタッフが国産アロマを紹介しながら、オリジナルの香りづくりをサポート。国産の木の香りに触れ、オリジナルアロマのブレンド体験ができる。	
役目を終えた"木"から生まれる一輪挿し	sato wood studio(山形)	ビジネスモデル	役目を終えた住宅や家具などを材料として一輪挿しへのリメイクする。長年、愛着をもって使ってきた"木"を再加工し、元の形は失われても、その思い出を大事にし続けて欲しいということがコンセプト。住み続けてきた住宅や故人が愛用していた家具が一輪挿しへと形を変えて、その人だけの価値ある特別な一輪挿しを作る。	
MEMORIALWOOD GUITAR	株式会社セッションナブル(宮城)	ビジネスモデル	自宅の木材を利用して製作したギター。結婚して二人で住み始め、子どもが生まれ、育ち、巣立っていき、夫婦二人になり、いつしか1人になり、古くなった自宅も取り壊されてしまう。その自宅には、家族のたくさんの思い出が詰まっている。それを形をとって残したい。そんな想いからこの製品が生まれた。	
こどものけんちくがっこう	NPO法人 こどものけんちくがっこう(鹿児島)、国立大学法人鹿児島大学大学院理工学研究科建築学専攻 環境建築研究室(鹿児島)、株式会社ベガハウス(鹿児島)	教育・研修システム	大学(建築学)と工務店の産学協同による、「習い事」としての建築教育プログラム。小・中学生を対象に、森や森林資源に関する座学から、木材を使ったものづくりを通して、建物や街について体験的に学ぶ授業を行っている。地元の資源を活かした美しい街や建物の創造など、将来の地域社会づくりに貢献する人材を育む。	

受賞作品名	受賞団体名 (主たる応募者、共同応募者)	サブカテゴリ	作品の概要 ※受賞者提供情報に一部編集・加筆等をしています	写真
<b>ソーシャルデザイン部門</b>				
ひろしまの森 木育VR体感フェス	木育普及委員会(広島)、広島大学大学院教育学研究科技術・情報教育学講座 木材加工研究室(広島)	イベント・ワークショップ (単発)	都市部の親子の木育や木材・森林利用などに対する普及啓発イベントとして、ジ・アウトレット広島と広島駅で計3回5日間開催。3パターンの木育の3DVR(ハーベスタの作業・フルCGの夜の森・山の山頂風景)・木育トークセッション・丸太切り体験・広島大学などによる木工教室・虫タッチなど、のべ5900名以上が参加。	
「道産木のある未来を見たいから。」MWS木のワークショップ	株式会社竹中工務店(北海道)、慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 小林博人研究会(神奈川)、(地独)北海道立総合研究機構林産試験場(北海道)、株式会社ニッタクス(東京)、紀伊國屋書店札幌本店(北海道)、北海道札幌工業高校(北海道)	イベント・ワークショップ (単発)	全国育樹祭を来年に控える北海道。札幌駅前でも市民や学生、林業関係者の参加型ワークショップを開催。道産木の豊かさや加工技術の魅力を共有し、活用の可能性を広げる為、有識者によるパネルディスカッションや、様々な道産樹種の合板でつくった簡易建築の組立て協働を通じて意見交流を促し、木材利用の面白さをPRした。	
森の資源や日田杉を活用した地域活性化プロジェクト	田島山業株式会社(大分)	イベント・ワークショップ (単発)	ここ大分県日田市中津江村の魅力を感じてもらおうべく、木漏れ日の下で森のウェディングを実施。この時の事例を活かして、森の資源の新たな活用方法の提案。地元の食材や地元の加工品を9割以上使い、また、地元企業とコラボして日田杉の招待状からゲストが座るベンチまで手掛け、地域活性化に貢献する。	
広葉樹のものづくりから森林づくりへ～樹と人と物を結ぶ80年の挑戦～	学校法人自由学園女子部(中学校・高等科)(東京)、ものづくりで森づくりネットワーク(岐阜)、株式会社ウォルデンウッズ(東京)、白鳥林工協業組合(岐阜)、AC Forest(岐阜)、NPO法人グリーンウッドワーク協会(岐阜)	イベント・ワークショップ (定期開催)	80年前から校舎で使ってきた木製の机と椅子を、高校生が主体となって全て新調する計画が発端となり、材料の背景を追うため産地である岐阜県の広葉樹人工林へ足を踏み入れた。今年で全教室の入替えが完了し新たなステージへ。木を通して持続可能な社会を考え次の80年に向かう広葉樹のものづくりと森林づくりに取り組んでいく。	
木のある暮らしコンテスト	河内長野市(大阪)	イベント・ワークショップ (定期開催)	河内長野市の地域木材である「おおさか河内材」の認知度向上や木育を通じた木のある暮らしの魅力発信等を目的としたコンテストで、平成28年度は「子どもに贈る机と椅子」、平成30年度は「パパを育てる木工キット」のデザインを募集した。平成28年度の実績は、実際に商品化し市内業者で販売を始めている。	
木材を使った高校生用防災プログラム「高校生のつくる災害時家具展」	日向市民公益活動団体コンパス(宮崎)	イベント・ワークショップ (定期開催)	いつ、発生するかわからない大災害に備えて、地元高校生に災害時家具を実際に組み立ててもらい「災害時に備え！」を実践するプログラム。「災害時家具展」を通して、自分たちは何をすべきか！ 地元での危機意識を高校生や市民も含め、訪れる人にも認識してもらい被害の軽減化を図ることを目的としている。	
日本文化の川上から川下まで。見て触れて体験して、国産材の利用を促進する一体的な木育活動。	菊池建設株式会社(神奈川)	イベント・ワークショップ (定期開催)	国産材利用の意義を、日本建築の中で国産材がいかに重要な役割を果たし暮らしや文化をつくっているかを実感頂く事によって伝達するプログラム。茶道等の日本文化を絡めた気軽に参加できる木育イベントから建築現場の見学、立木伐採現場の見学まで、川上から川下迄の一体的な流れとして体験イベントを開催し理解を深め、利用を促進する。	
公益社団法人土木学会木材工学委員会	公益社団法人 土木学会 木材工学委員会(東京)	普及・啓発 (システム)	土木学会木材工学委員会の活動内容は、森林資源の活用法、木材の土木分野における利用拡大、新しい木製土木構造物の開発、地球環境問題への対応等の諸問題の調査・研究、学際的研究の推進、普及教育活動、マニュアル・指針の整備など多岐にわたる。約100名の委員が7つの小委員会に分かれて取り組んでいる。	
持続可能な社会の実現に貢献する早生樹の活用	(公社)日本木材加工技術協会関西支部 早生植林材研究会(大阪)、(一社)平林会(大阪)	普及・啓発 (システム)	天然林資源から人工林資源利用への転換を目指し、早生樹資源や利用技術に関する情報交換の場として研究会を設立した。シンポジウムなどで情報を交換するなか国産早生樹センダンに着目し、荒廃農地対策としてのセンダン植林、センダン材の工業利用開発などで、持続可能な社会の実現に向けた研究・啓蒙活動を続けている。	

受賞作品名	受賞団体名 (主たる応募者、共同応募者)	サブカテゴリ	作品の概要 ※受賞者提供情報に一部編集・加筆等をしています	写真
枚方市立菅原生涯学習市民センター「MOKUプロジェクト」	大阪ガスビジネスクリエイト株式会社(大阪)	普及・啓発 (システム)	公共施設内の空きスペースを木質空間の「コミュニティスペースMOKU(モク)」へとリノベーションするプロジェクト。コンセプトや設計、運営を地域の市民や大学と一緒に考えている市民協働型で実施。地域の市民にとって、職場でも学校でもなく、それぞれのペースで学びやつながりが体感できる場づくりを目指している。	
FSC材を使用したジャングルジムの貸出	掛川市林業研究会(静岡)、掛川の風景を創る会(静岡)、掛川市森林組合(静岡)、オールスタッフ株式会社(静岡)	普及・啓発 (ツール・メディア)	FSC材で作られた木製ジャングルジムの組立て、遊び、解体するという一連の作業を通じて、木や参加者同士のふれあいの場をつくり、同時に木組みの文化・木の良さ・森林認証の普及啓発を図る。対象はおおむね小学生中学年以上だが、大人や上級生と一緒にであれば低学年以下の子も参加することも可能。	
森林と共に生きる街「LOOP50」建設構想の発信	株式会社 大林組(東京)	普及・啓発 (ツール・メディア)	地域の森の木だけで1万5千人の街の建築とエネルギーを全てまかない、ループのように森と街の循環が続く都市「LOOP50」建設構想を提案、広く発信する。森林の可能性、持続可能な利用と魅力ある暮らしが併存する姿を示す事により、森林と共生し、木を中心とした循環型社会の実現に向けた普及啓発を行う取組み。	
街にスポット50カ所計画	木彩工房(福岡)	普及・啓発 (ツール・メディア)	街の活性化の一助になるべく、インスタスポットを小さな街に50カ所作る活動。家具の町を若い人に知ってもらい、数年後、家を建てる際に大川市が選択の一つになるよう、一度、大川市に来てもらう事を目的に、一店目として制作した。中央椅子に座ると蝶になれる写真スポット。	
三陸鉄道復興 × 広葉樹振興プロジェクト「広葉樹の魅力を活かした木製吊り手の製作とモニタリング調査」	宮古農林振興センター林務室(岩手)、三陸鉄道株式会社(岩手)、株式会社オノダ(岩手)、株式会社小林三之助商店岩手工場(岩手)、株式会社小友木材店(岩手)、有限会社内田販売システム(岩手)	普及・啓発 (ツール・メディア)	平成31年3月に日本最長の第三セクター鉄道となる三陸鉄道の応援と、宮古地域の広葉樹の魅力PRを目的として、広葉樹挽き板をクロスパネル加工して制作した木製吊り手を車両内に設置して乗客を対象にモニタリング調査を実施。多くのメディアを通じて、広葉樹の温もりや樹種の多様性を広く宣伝し、周知することができた。	
おきなわの木の魅力を発信するツール『OKINAWA』	有限会社 大和産業(沖縄)	普及・啓発 (ツール・メディア)	一部の木工作家にしか利用されない沖縄の木々をもっと身近な存在にすべく生まれた、沖縄の木でつくられた実物サンプル21種と手引き本がセットになった木製鞆型の商品。地元や県外の方々に沖縄の木の魅力を発信するための普及・啓発ツールである。	
わくわくのいえ(ワクワク・梓梓)	かたちとことばデザイン舎+ユウ建築設計室(徳島)、一條ランバー株式会社(東京)	普及・啓発 (ツール・メディア)	モータリゼーションの中で、既製品のアルミサッシの寸法は決まってきた。その寸法に左右され、家の間取りや採光のとりかたが決まってしまうことは、住宅の自由度を大きく奪う。梓のみでできた「梓梓の家」で、子ども達の自由な発想で、等身大の家づくり・空間体験をワクワク楽しんでもらうことを試みた。	
杉出しホープ	秩父市雇用創造協議会(埼玉)、ヨロス国産木材(埼玉)	ビジネスモデル	子ども達に木材に興味を持ってほしいという思いから、プラスチック製品でおなじみの小学校机用引き出し(お道具箱)を秩父の杉で作った。安全や丈夫さを考慮し底板まで釘や接着剤を一切使わず、蜜蝋を塗った「杉出しホープ」は、小学校卒業後ご家庭に持ち帰りスパイスラックや壁掛けとして再利用できる。	
kobokuエコシステム	株式会社山翠舎(長野)	ビジネスモデル	古民家の空き家問題が深刻化する一方、築70年以上の古民家には今日では入手困難な部材がたくさん使われている。山翠舎では古民家を商業施設や公共施設の建築・改装にスムーズに活用する仕組みを構築。古民家の所有者、事業者、施設を訪れるユーザーの皆が笑顔になり、地球環境にも寄与するビジネスモデルを展開している。	

受賞作品名	受賞団体名 (主たる応募者、共同応募者)	サブカテゴリ	作品の概要 ※受賞者提供情報に一部編集・加筆等をしています	写真
IKONIH～ヒノキの魅力 を世界の子ども達へ～	IKONIH(大阪)	ビジネスモデル	日本特有の樹種である檜を原料に、未利用材や林地残材や加工時の端材から子供用家具や玩具を製造販売。素材生産⇒加工⇒販売を全て自社で行うことで、一貫した体制を整えた。IKONIHは国産材檜を最大限に有効活用できることが特徴で、樹種として優れている檜の家具や玩具を海外へ販売していくことが狙い。	
木質バイオマス熱エネルギーを活用によるマンゴー・コーヒー栽培・うなぎ育成	那珂川町地域資源活用協同組合(栃木)、株式会社トーセン(栃木)、林家川魚店(栃木)、株式会社那珂川バイオマス(栃木)、鈴木材木店(栃木)、星の見える丘農園(栃木)	ビジネスモデル	製材所と連携により、製材所が作り出す木質バイオマス熱エネルギーを活用して、マンゴー栽培、コーヒー栽培、ウナギ育成をし、商品化している。地域の木材企業が核となって熱エネルギーを発生させ、農業・漁業者と連携し地域ビジネスとして成立させた。	
低温乾燥による国産杉材の付加価値向上プロジェクト	株式会社 中央住宅(埼玉)、株式会社 中央住宅(埼玉)、株式会社モリアン(大阪)、全国森林組合連合会(東京)、東京大学大学院薬学系研究室(東京)	仕組み・ネットワーク(生産・加工・流通・販売をつなぐもの)	国産杉材の有効活用と、快適な住空間の創出を同時に叶える産学共同プロジェクト。低温乾燥の国産杉の建材を開発し安定供給するスキームを構築し、それにより得られる快適性向上を科学的根拠を基にユーザーに示す事で、住空間という身近な場所への活用を促進。国内林業活性化の一助となる事を意図した取り組みである。	 <small>低温乾燥の国産材による新築分譲住宅「SUGINOKA」を活用したリビングデザイン事例</small>
木育×プログラミング教育【MOCKUPプログラミング教室】	株式会社武田林業(愛媛)、内子町(愛媛)、内子町森林組合(愛媛)、株式会社藤岡林業(愛媛)	教育・研修システム	国土の7割を占める中山間地域の児童を対象に「木育プログラミング教育」を実践するプログラミング教室。伐採シミュレーションゲームづくりや、木工ロボットのプログラミング操作、林業機械やドローンに触れる課外授業など、山を舞台にプログラミングを学ぶ国内初の取り組み。	
『木音の部屋(もねのへや)』プロジェクト	島根大学教育学部附属幼稚園(島根)	教育・研修システム	就学前教育の特色として木育の推進を進めており、2019年1月に木育ルーム「木音の部屋(もねのへや)」を整備し、就学前教育としての取組、地域連携としての取組、産学連携としての取組を行っている。地域連携としては、地域の未就園児(0～3歳)親子を対象にして、月1回開放日を設けて実施している。	
にいみ木にかかわりビトプロジェクト 木育ネットワークの構築～想いをカタチへ～	にいみ木のおもちゃの会(岡山)	その他	当会は発足時より「生涯木育による地域の活性化」を掲げ、これまで「木育」という言葉の浸透と理解を深めるためのワークショップ等を行ってきた。2019年度は、行政、林業、教育機関、子育て支援団体等と幅広く連携し、「木育ネットワーク」を構築することで、木育を「みえるカタチ」へと繋げていく取組みを行った。	
一円融合～報徳の森プロジェクトの取組み～	報徳の森プロジェクト(神奈川)	その他	東日本大震災をきっかけに2011年12月、神奈川県小田原市で発足した民間団体で林業、木材業従事者を中心に構成。災害時の相互応援協定を結ぶ福島県相双地方へ、小田原の間伐材を用いた木材・木製品の供給と、それによる小田原の森林林業再生という当初の目的から、現在は小田原市内での木材利用拡大へと発展している。	